

ビレッジ構想

あたたかみのあるまち

〜マイホームタウン牛久〜を目指して

まちづくりの目標である「あたたかみのあるまち」マイホームタウン牛久の実現のためのキーワードとなるものが「都市観光」です。

「都市観光」とは、牛久市の歴史資源などに磨きをかけ、地域の魅力をつくり、「住んでよし」「訪れてよし」のまちづくりであり、「都市観光」を軸とした活性化について展開していくべき方向を構想としてまとめたいものが「牛久ワインビレッジ構想」です。

この構想をもとに今後市民の皆さんとともに進めていきます。詳しくは、順次広報うしくなどでお知らせします。

牛久ワインビレッジ構想

3つのテーマ

(1) シャトルネットサンス

日本初のワイン醸造場として開設したシャトーカミヤの再生とその周辺環境づくりおよび市民参加の仕組みづくりを目指します。

(2) 駅前ビルエスカートの活性化

市民のための開かれた「オープンハウス エスカート」として、駅前にふさわしい「顔」づくり、観光客にも利用しやすい施設づくりを目指します。

(3) 水と緑のネットワーク

牛久沼周辺にある水・緑や歴史・文化資源などを生かしながら、市民が憩い、観光客が歩いて楽しめる空間づくりを市民との協働により目指します。

◆牛久ワインビレッジ構想の理念

☆拠点とネットワークづくり

まちの歴史・文化的資産や地域資源を拠点として磨きをかけ、拠点を結び、まちを「回遊する(快適回遊空間)」ネットワークづくりにより都市観光の基盤を整えます。

☆明確な中心・顔づくり

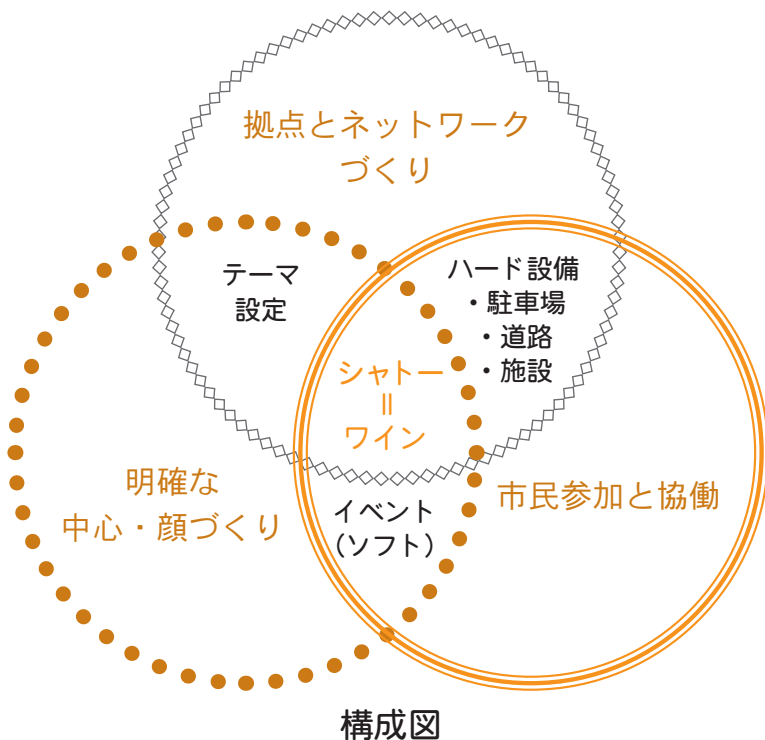
来訪者を迎える、まちと人の出会いを演出できる「玄関・顔」、人と交流する(市民が出会い・ふれあう)「中心」となる空間・仕組みをつくることで、都市観光の魅力を高め

ます。

☆市民参加と協働

市民による積極的な推進と産官・民の協働を実践することにより、都市観光によるまちづくりをまちに根付いたものにします。

来訪者を迎える、まちと人の出会いを演出できる「玄関・顔」、人と交流する(市民が出会い・ふれあう)「中心」となる空間・仕組みをつくることで、都市観光の魅力を高め



牛久ワイン

◆シャトー・ネッサンス

ぶどう・ワインづくりの歴史やシャトー・カミヤという文化遺産などのほかに類を見ない地域資源『レンガの城』を有効利用します。

- ★日本初のシャトーの復元(ワイン醸造所、ぶどう畑の再生)へ
- ★シャトー周辺の環境づくり(みどり、ぶどう畑化)へ
- ★「文化遺産」や「ぶどう・ワイン」に対する市民意識の醸成を



牛久の観光スポット「シャトー・カミヤ」

◆駅前ビルエスカードの活性化

駅前にぎわいの拠点(市民のための開かれた「オープンハウス エスカード」)として、交流を楽しみ牛久を訪れる人々をもてなすウェルカム・プラザを設置します。

- ★駅前の利便性を生かした…
- ★市民に便利で利用しやすく
- ★玄関口に立地する「顔」としてふさわしく



牛久駅前の「ブリアントヴィルうしく」

◆水と緑のネットワーク

牛久沼周辺の資源の魅力をさらに生かし、市民が憩うレクリエーション空間、郷土の歴史、文化を学び伝える空間、支え合い迎え入れるコミュニティを醸成します。

- ★牛久駅とのネットワークを重視した…
- ★ワークショップや交流イベントの市民参加などのプログラムの充実を
- ★近隣との広域的な連携を



牛久沼には白鳥の姿も

※「牛久ワインビレッジ構想」についての詳しいパンフレットを市地域整備課でご用意しています。

問い合わせ 市地域整備課 ☎873-2111内線2561～2562